

平成25年10月 2日

職 員 各 位

市 長

平成26年度予算編成における基本的な考え方

平成26年度は、本市のまちづくりの最上位計画である「ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」（以下「戦略プラン」といいます。）の3年目を迎え、プランに描いた理想のまちづくりに向けて、一つひとつの取組を着実に実行していくことが重要な時期であります。そのため、平成26年度当初予算の編成に臨むにあたり、市政に対する私の思いを皆さんと共有しなければならないと考え、ここでお伝えするものです。

初めに、本年度前半を振り返りますと、この夏は記録的な猛暑や過去に経験のない集中豪雨が記録され、全国各地で竜巻や台風などによる甚大な被害が発生しておりますが、当市においては、大きな被害もなく、比較的穏やかな上半期だったと言えます。

しかし、災害の発生は予測できないものであり、戦略プランの基本目標の中にもあるように「安心・安全が実感できるまちづくり」の構築に向け、防災・減災の取組を計画的にすすめ、地道な備えを怠らないことが肝要です。

また、「子育て環境日本一を目指したまちづくり」の面では、医療費助成マルフク制度を中学3年生まで、学童保育の対象年齢を6年生までそれぞれ拡大し、給食費の第3子無料化を実現しました。

さらに「地域が輝くまちづくり」を目指して、多くの地域で中核的な地域コミュニティが活動を開始し、また、地域活動の拠点であるコミュニティセンターを計画的に改修するなどプランの実現に向け確実に前進しています。

次に、平成24年度の決算は、おおむね良好でした。普通交付税の総額確保、歳出

削減努力の顕在化等により、財源調整のための基金取り崩しを行わず、さらに1億円の積み立てを行うことができました。第3次財政健全化プランにおいても、決算ベースでは基金繰入れに依存した財政運営からの脱却という課題もクリアすることができました。

しかしながら、その歳入構造は、地方交付税などの依存財源の割合が高く、国の地方財源対策の方針次第で、歳入不足に陥る可能性をはらんだ脆弱な側面を有しており、「龍ヶ崎市財政運営の基本指針等に関する条例」に基づき、財政力の強化に努めていかなければなりません。

さて、予算編成における私の基本的な考え方です。

私の考えるまちづくりの方向性を示した戦略プランにおいて、目指していくまちの姿（まちづくりのキャッチフレーズ）を「人が元気 まちも元気 自慢したくなるふるさと 龍ヶ崎」として掲げ、いつまでも住み続けたい、いつかは住んでみたいと思ってもらえ、誇れる、そして自慢したくなる「ふるさと龍ヶ崎」を本市の将来像としています。

この将来像を実現するために、4つの重点戦略のもとに12の基本目標を定め、施策の展開を「工程表」としてまとめてあります。

予算要求にあたっては、工程表に掲げた主要事業の着実な推進に留意するとともに、その効果を見極めていただきたいと考えます。

これとともに、この工程表の実施にかかる財源は、ある程度の見通しは立てているものの、毎年度の予算の中で確保していくという性質を併せ持っていることを再認識し、戦略プランの取組に適正な予算の裏付けを担保できるように、また、財政基盤を持続可能なものとするために、引き続き歳入確保と歳出削減に向けた、職員の皆さんのさらなる努力をお願いいたします。